

大学院教育に関する海外調査報告書

—韓国(釜山大学校、高麗大学校、ソウル大学校)—

社団法人国立大学協会

教育・研究委員会

まえがき

文部科学省は、「新時代の大学院教育 ― 国際的に魅力ある大学院教育の構築に向けて ―（平成 17 年 9 月 5 日付中央教育審議会答申）」を踏まえ、各大学における大学院教育の充実・強化を図る観点から、今後の大学院教育の改革の方向性及び早急に取り組むべき重点施策を明示し体系的かつ集中的な施策展開を図る目的として、平成 18 年 3 月 30 日に「大学院教育振興施策要綱」を策定した。

本委員会は、これらの答申及び施策要綱を踏まえた各大学における取り組み状況等について、昨年 10 月にアンケート調査を実施し、平成 19 年度中に「国立大学の大学院の現状と課題について」の報告書を刊行する予定である。

また、答申及び施策要綱の中では、“国際的に魅力ある大学院教育”、“大学院教育の国際的な通用性・信頼性の必要性”が謳われており、本委員会ではこのたび、国際性を意識した大学院教育について先進的に取り組んでいる韓国の 3 つの大学を訪問・調査した。

意見交換の概要、我が国の国立大学に参考となる事項、取り組むべき課題などを取りまとめ、ここに『海外調査報告書』を刊行する運びとなった。

各大学において特色ある大学院教育に取り組んでいただく上で、本報告書を活用いただければ幸いである。

最後に、大変お忙しい中、訪問に際してご対応いただいた各大学の関係者のご厚意に対して改めて感謝申し上げたい。

平成 19 年 4 月

（社）国立大学協会 教育・研究委員会委員長

名古屋大学長 平 野 眞 ―

目 次

第 1 部 調査概要編

1 釜山大学校【国立】	1
2 高麗大学校【私立】	5
3 ソウル大学校【国立】	12

第 2 部 資料編

提供資料

・ 釜山大学校	15
・ ソウル大学校	17

調査日程及び調査団名簿	33
-------------------	----

教育・研究委員会及び教育小委員会委員名簿	34
----------------------------	----

第 1 部 調査概要編

1 釜山大学校【国立】

(1) 日 時 2007年2月12日(月) 10:30～12:30

(2) 対応者 金 総長 外5名

(3) 概 要

① 大学校の概要について

学部数	研究科数	教職員数	学部生数	大学院生数	留学生数(内数)
13	8	1,650	19,000	8,000	200

1946年5月15日に韓国初の国立大学校*として開校。韓国の未来を背負う創意と責任感を十分に兼ね備えた人材養成を教育目標とする韓国東南圏の中心的名門大学校で、別名は「社会高峰」。釜山(Pusan)、梁山(Yangsan)、密陽(Myrang)の三つの主要キャンパスから成る。釜山キャンパスは大学院中心で、人文社会科学、応用基礎科学、先端工学に重点化し、梁山キャンパスには医学・生命科学分野に特化した医科・歯科専門大学院、看護大学、病院などがあり、密陽キャンパスにはナノバイオ分野専門のナノ科学技術大学がある。密陽大学校との統合では、分散型にならないよう類似する学科を統合し、いずれかのキャンパスに集約、それぞれが得意分野特化型になるよう教員及び職員を再配置して注目された。

130万冊を越える蔵書と1万2,800種余りの定期刊行物、約5,600の閲覧室を備える図書館をはじめ、先端の語学教育施設を揃える語学教育棟、世界規模のコンベンションセンターとしてのサンダム国際会館、1,100病床を数える釜山大学校病院や緊急医療センターを有している。また、付属研究所としては、遺伝体物性研究所、金型加工研究所、環境技術産業開発研究所、先端造船加工研究センターなどが国家革新研究所として脚光を浴びており、現代物性研究所、経営経済研究所、韓国民族文化研究所などは韓国学術振興財団の重点研究所として指定されている。

論文総数は韓国の大学校で1位を誇る。SCI(Science Citation Index Expanded)論文は約1,300本で韓国5～7位。LG電子やサムスン電子など韓国の優良企業と産学協力契約を結び、企業の要求に応じた人材育成のシステムを導入。アジアでは初めてオックスフォード大学と釜山工科大学が協定を締結した他、造船工学分野は世界トップクラスで、材料工学分野もハイレベルを維持している。

韓国上場企業の最高経営者のうち、釜山大学校出身者は大学校別出身者ランキングの第5位で、これまでに司法試験合格者350余名、公認会計士合格者400余名を輩出し、各種国家試験での合格者は毎年韓国大学校の上位圏内に入っている。

予算規模は政府支出が1,100億ウォン、登録金(授業料)が1,100億ウォンの計2,200億ウォン(約250億円)。なお、企業からの基金受入も積極的に行ない、法体系を改正して自己収益システムを構築し、文化会館(釜山キャンパス)やシルバー産学団地の造成(梁山キャンパス)などを行なっている。

*大学校：韓国では「大学校(テハッキョ)」が日本の大学に相当し、「大学(テハク)」は日本の学部または短期大学に相当する。

② 韓医学（漢方医学）専門大学院の設立について

梁山キャンパスには、医学専門大学院、歯科医学専門大学院、看護大学、大学病院、子供病院、看護センターなどがある。ここに、韓国で初めての漢方医学専門大学院を設立し、西洋医学と同じ水準に引き上げるために、漢方医学の科学化、産業化、世界化を目指している。今後、漢方医学の研究所を設置する予定で、漢方医学専門大学院を中心とする様々な国際化に向けた活動を行なっている。すでに中国の3つの大学や日本の2つの大学と交流があり、加えて自然治癒の専攻を有するアメリカ・オレゴン州のポートランドにある National College of Natural Medicine（1959 年設立）に訪問する準備をしている。このように、梁山キャンパスを中心に生命科学の国際産学研究クラスターを構築し、漢方医学の専門書を英訳したり、研究者や学生の交流を通じて、漢方医学の産業化や世界化の達成を目指している。

③ BK21 事業について

BK21 (Brain Korea in the 21st Century) プログラムは、世界水準の大学院を目指し、大学の研究力を増進すると共に、後進の育成を目的として創設され、7 か年計画で 1999 年 9 月に第 1 次事業が、2006 年からは第 2 次事業が行われている。日本の 21 世紀 COE や、中国の 211 工程（21 世紀に 100 校の重点大学と重点学科を設定するというプロジェクトで 1996 年から実施されている）が類似のプログラム。

釜山大学校の BK21 事業では、33 の事業数があり韓国第 2 位。内訳は、人文社会分野 5、科学基礎 5、応用及び融合科学 8、専門サービス 1、国家政策領域のコア分野 14 となっている。予算規模は 208 億ウォンで第 4 位。主な内訳は、国費 161 億ウォン、自治体資金 3.6 ウォン、産業資金 32 億ウォン、大学資金 10 億ウォン。

この事業には教員 420 名、大学院生 1,593 名が関わり、国際学界での発表や、SCI 論文を発表して、釜山大学校の国際化に貢献している。

④ 産学連携について

ドイツのフラウンホーファー研究機構の IFAM 研究所（応用素材研究所：Fraunhofer・Institut für Angewandte Materialforschung）と共同で、2006 年 5 月に PNU (Pusan National University)・IFAM 国際共同研究所を開設。協力の主な内容は、IFAM 研究所保有の機械分野や材料分野での固有技術を国内産業へ移転することや、関連大学のブレーメン大学と学術交流協定締結をして、技術移転のための人材育成教育を行なうことなど。

また、同機構の IGB 研究所（界面工学・バイオテクノロジー研究所：Fraunhofer・Institut für Grenzflächen- und Bioverfahrenstechnik）と共同で、同じ 2006 年 5 月に PNU・IGB 国際共同研究所を開設し、同年 10 月には共同国際シンポジウムを開催した。

イギリスのロールスロイス社とも共同研究を行っており、当初は技術の共同所有と技術移転のみの協約であったが、その後、釜山大学校で技術をさらに発展させ、製品を生産し、それをロールスロイス社が買い取るという協約が成立。国際的な産学協力だけでなく、韓国の収益をも生み出している。

⑤ 韓国 PNU・OSU TESOL プログラムについて

PNU・OSU TESOL プログラム（釜山大学校－オハイオ州立大学 他言語話者に対する英語教授法プログラム：Pusan National University・Ohio State University Teachers of English to Speakers of Other Languages Program）は、2006 年から始まったプログラムで、アメリカ・オハイオ州立大学から教授 4 名が派遣され、夏休みに 6 週間集中開講で英語の教授法を学ぶ。プログラム修了者の修得単位は、釜山大学校だけでなく、オハイオ州立大学の大学院に入学すれば、そこでの修得単位として認められる。

⑥ 複数学位プログラム（Double Degree Program）について

提携大学と両方で学位を認めるプログラムで、アメリカ・フロリダ工科大学と協定を締結。本年第 2 学期から学生を受入れる。修士課程と博士課程を統合したプログラムで、全 90 単位のうち、釜山大学校の修士で 20 単位、博士で 30 単位の計 50 単位を取得し、残り 40 単位をフロリダ大学で取得する。審査はインターネットの映像を通じて共同の指導教授と審査員が行なう。

また、アメリカ・マイアミ大学とも大学院間協定を進行中で、これらのプログラムを通して、大学院生の国際化に貢献する。

⑦ 拠点キャンパスの構築について

釜山大学校の統合モデルは、分散型や分校型ではなく、それぞれのキャンパスで特化型の拠点を形成しており、成功モデルとして注目されている。

釜山キャンキャンパスは、人文、社会科学などの総合研究が中心で、密陽キャンパスは、BT（Biotechnology）分野、ナノバイオ特化型キャンパスで、韓国で初めてナノ科学技術大学を設立した。梁山キャンパスは、医・生命科学特化型キャンパスになっている。

釜山大学校と密陽大学校の統合（2006 年）に際しては、類似した学科等は再編・統合してどちらかのキャンパスに配置された。教員及び事務職員も同じように統合、再配置された。その際、教職員のみならず、学生や同窓会、市民、報道関係に対して、計 35 回の説明会を行ない、統合のビジョンやその必要性、統合のメリットやデメリットを説明し、各種資料も配布した。その後、統合についての無記名投票を行なったところ、教員の 85% が投票し、80% 以上が賛成で、職員も 90% 以上が賛成したという。

⑧ 留学生への対応について

中国からの留学生が一番多く、工学や商学分野に人気がある。学部生用には一部英語が用いられているが、大半はハングル、韓国語で授業が行われている。一方、大学院生向けには基本的に英語の授業を行なっている。

教員は英語で授業をすると、講義指数の計算でインセンティブが与えられ、通常のクラスの 1.5 倍換算になる。教員の新規採用時に英語で講義ができることを明記した学科はすでに 13 学科に及び、今後、採用条件に英語での講義を義務化し、外国人教員の

比率を高める計画がある。

なお、日本人留学生は現在 12 名おり、ハングル学科に多い。

留学生のための宿舎は 310 室であるが、現在別の宿舎を建設中で、9 月に竣工すれば部屋数は全部で 1,600 室になる。

また、現在国際交流センター内には、留学生のためのワンストップセンターを設けており、そのサイトを通じて留学生の福祉一般や学生活動に関する多様な情報を提示している。

(4) まとめ

釜山大学校は、密陽大学校との統合に見られるように、地域の拠点大学として求心力に溢れ、国際化戦略においても、産学協同研究としてロールスロイス社との共同研究や、ブラウンホーファー研究機構と共同研究所を開設し、またオックスフォード大学との協定、複数学位プログラムの実施など、エネルギーな活動を展開して、確実な実績を上げている。

かつて韓国の留学生は、まず日本に来て、それからアメリカへ渡るというパターンが多かったが、近年の学生は、日本を乗り越えて直接アメリカへ留学するケースが増えていると、金仁世 (Kim Inn Se) 総長が挨拶時に語っていたのが印象的であった。韓国人の活動領域は国際舞台へ直結して、日本より遠くのアメリカや西欧諸国を目指すべきモデルとしている。釜山郊外にある高層アパート群は経済成長の象徴であるが、同時に大学の学術レベルも長足の進歩を遂げていると思われる。

ヒアリング時の、工学系の大学院進学率は他の分野より低いという回答は意外であったが、学部卒の就職率がいいからという説明があり、この点においても工業化による高度成長経済の様子が裏付けられる。今後の少子化に伴う 18 歳人口の減は 2015 年からということで、まだ当分右肩上がりの傾向が続くであろう。

法人化案が政府から出ており、いずれ韓国の大学も法人化されるのかもしれないが、まだ国立大学でありながらも、法律を整備して自主的収益システムを全国初の試みとして構築したという点は、釜山大学校の力強さが感じられる一面である。この点においても、日本の大学は、すでに法人化したにも関わらず、法的制約が多く、いつの間にか出遅れている。



2 高麗大学校【私立】

(1) 日 時 2007年2月13日(火) 10:00～12:00

(2) 対応者 崔 大学院長 外6名

(3) 概要

① 大学校の概要について

学部数	研究科数	教職員数	学部生数	大学院生数	留学生数(内数)
19	18	1,855	26,299	8,983	大学院正規学生 約200

(2006年3月1日現在)

*教職員1,855人のうち、教員は1,296人。他に非常勤教員が1,360人。

*学部・研究科以外に、外国語研究所(教員47人)と教育・学習センター(教員3人)がある。()内の教員数は上記表の教職員数1,855の内数。

*留学生数については、下記③を参照。

2006年に授与した学位数は、学士が4,641、修士が2,121、博士が282。

2006年度年間予算は、約6,200億ウォンである。

高麗大学校は韓国の私学の雄として高い評価をえている総合大学である。政界、財界をはじめとして韓国社会の広い分野に多くの人材を輩出しており、特に国会議員や言論界で活躍している人材を多く出していることで知られている。

1905年に李容翊(Yong-Ik Lee 1854 - 1907 宮内府内蔵院卿等を歴任)によって普成学校 Boseong College として設立され、1932年に金性洙(Sung-Soo Kim 1891 - 1955、1914年早稲田大学卒業、『東亜日報』創刊者の一人、1951年 - 52年副大統領)に引き継がれ、後に高麗大学校 Korea University と改称された。

キャンパスはAnam-Main Campus, Anam-Science Campus, Seochang Campusの3つがある。これらのうち、前二者はソウル市内北東部のAnam-dong(安岩洞)にあり、道路を挟んで互いに隣接している。Main Campusには大学校本部と教養学部、教育学部、法学部、政治・経済学部、経営学部、国際研究学部、ジャーナリズム・マスコミュニケーション学部、美術学部等がある。Science Campusには理学部、工学部、医学部、看護学部、健康科学部、情報通信学部、生命・環境学部等がある。Seochang Campusはソウル南方140kmのSouth Chunchong Province(忠清南道)のJochiwon(鳥致院)にあり、6,300人の学部学生が人文学部、理工学部、経済・商学部で学んでおり、330人の大学院生が管理・情報研究科、人文・情報研究科、生命医学研究科で学んでいる。

3つのキャンパスに、the Central Library, the Science Library, the Medical Library, the Seochang Libraryの4つの主要図書館があり、それらの蔵書合計は約170万点である。またMain Campusの百周年記念サムソン・ホール(Centennial Memorial Samsung Hall)に、Centennial Digital Libraryがある。

2学期制であり、春学期は3月初めから6月中旬、秋学期は9月初めから12月中旬である。

授業料（登録料）は学部と大学院で異なり、専攻分野でも異なる。1 学期分の授業料は、学部では人文・社会系 313 万ウォン、理学・体育系が 370 万ウォン、工学系が 426 万ウォン、美術系が 430 万ウォン、医学が 546 万ウォン、大学院では人文・社会系が 397 万ウォン、理学・体育系が 481 万ウォン、工学系と美術系が 561 万ウォン、医学が 702 万ウォンである。

Main Campus に隣接して、外国人留学生 230 人、外国人研究者 63 人が入居できる宿舎 CJ-International House（2005 年 2 月竣工）がある。



〈サイエンス・キャンパス全景〉

② 大学院について

1) 国際化について

外国人留学生で大学院の正規学生は約 200 人である。そのうち日本からの学生は 16 人であり、その専門は多岐にわたっている。

医学・理・工系の学生の誘致に努めており、その結果、最近では、中国、ヨーロッパ諸国から留学して来ている。

講義の 25% が、英語等の外国語によって行われている。

大学院での成績評価は、BK21 以来、相対評価を行っており、A の割合を制限している。これについては学生の反対があるが、大学校側としては厳格な成績管理を行ううえで必要であると考えている。

大学院入試では、高麗大学校出身者を 50% 以上は入れず、他大学校出身者だけでなく、留学生にも機会を与えている。

グローバル化の時代であることを考慮して、理・工系留学生の 100%、人文系留学生の 75% に、奨学金を与えている。

国際化の流れに沿うべく、2 年以内に大学院留学生のための寮・宿舎を建設する計画があり、また、施設の改善や、種々の教育をなしうる優れた教員の確保に取り組んでいる。

学部学生に対して行っている「7 プラス 1 制度」（7 学期を終えた学部学生が 1 学期海外で学ぶ機会を与える制度）を、今年中に外国語文学部の大学院でも実施する計画である。

2) 大学院生に対する経済的支援について（日本の TA、RA の制度との関連で）

教授 1 人に大学院生 1 人をアシスタントとして付けることができる制度があり、また、大学院生が大学校の種々の仕事を補佐するシステムもある。

これらによって支払われる金銭は大学院生を支援する奨学金として位置づけられており、大学院生の場合、全体の授業料の 85% がこれによって賄われている。それを 100% にするための取組を種々の形で進めている。

特に、理学部では、教授 1 人に大学院生 1 人をアシスタントとして付けることが現実には不可能なために授業科目ごとに TA を置く制度を設けており、これによって多くの学生に恩恵が行き届くようにしている。また、教授が大学院生の授業料の全額を賄えるように研究費を充てる場合もある。さらに、BK21 から出る奨学金が大部分の大学院生に行き渡っていて、授業料、生活費、国際会議で発表するための渡航経費などに充てられている。

3) 学生の理工系離れ、理工系大学院生の優遇、BK21 について

韓国でも最近、学部入学時に理工系を避けて医学部や法学部を好む傾向が現れつつある。理工系離れは世界的傾向でもある（サウジアラビアでも理工系離れがひどいと聞いている）。

他方、韓国の産業は活発であり、教授の研究費は最近では非常に多くおりるようになっていいる。そのため、研究費の約 30% を奨学金に充てることができている。特に理工系学生だけを支援しようとしているわけではない。しかし、BK21 では政府の理工系育成政策がある程度絡んでおり、理工系をサポートする支援金が非常に多い。

BK21 は学問分野の高等人材を養成するプログラムであり、国から支払われる金額の 50% は学生のために支払われなければならないという義務条項がある。このことによって、学生は授業料等に当てる奨学金を得るだけでなく、海外で研究発表を行うための経費や研修の費用などを賄うことができ、BK21 を通じて大学院生が活発に研究を行いうるための政府レベルのサポートがなされている。

③ 外国人学生全体の数について

交換制度によって受入れている留学生が約 500 人おり、そのうち、学部学生は 300 人、大学院生は 200 人である。なお、交換制度によって受入れている留学生は学費を所属大学に払い、受入先の大学である高麗大学校には払わない。ただし、寮費等は払う。

短期プログラム、インターネットによるプログラム、サマーキャンプで、海外の大学から約 800 人の学生が高麗大学校を訪れている。

高麗大学校の韓国語文化センターで韓国語を履修している留学生が約 200 人（日本からは大東文化大、早大など）いる。

その他にも韓国語を学習する学生が年間約 4,000 人いる。

これらを合計すると、年間 5,000 人を超える外国人学生が何らかの学習のために高麗大学校を訪れている。

④ 留学生に対する奨学金について

留学生に対する奨学金制度があり、留学生全体の 20～30%が奨学金を受け取っている。

日本人留学生を対象にした奨学金もある（個人の寄付による奨学金。そうした韓国人が 2 人いる。因みに、そのうちの一人による奨学金は年間 2,000 万ウォン）。

早稲田大学学生に限った奨学金もある（LG グループによる奨学金）。

昨年、ある在日韓国人が高麗大学校での日本学の発展と日本人留学生のための奨学金を設けた。

その結果、全体では、日本人留学生約 10 人に年間約 2,000 万円の奨学金を与えている。

今後も奨学金を充実し、日本人学生を積極的に誘致したいと考えている（その場合、念頭に置いているのは、高麗大学校と協定を結んでいる日本の大学の学生である。現在、日本の約 40 の大学と協定を結んでいる）。

⑤ 建物・施設について

今回訪問した Anam・Main Campus の建物は総じて堂々たる重厚な印象を与え、Anam・Science Campus の建物はより近代的な外観を呈しているが、いずれの建物も落ち着いた風格をもっている。比較的最近の建造物もあるが、各キャンパスで建物全体の調和がよく取れており、全体的な統一性が感じられる。年数を経た建物も改修によって老朽さやみすぼらしさをまったく感じさせず、存在感のあるものとなっている。建物間の距離も「近すぎず、遠すぎず」であり、各キャンパスは建物の密集感はなく、ほどよくまとまっており、キャンパス内の移動は機能的である。実際に内部を見学した建物はいずれも、内装面でも落ち着いた印象を与え、手入れもよく行き届いている。

いずれのキャンパスにも、各種のテナント店をも入れた、明るく幅の広い地下通路があり、厳冬季や雨天時の建物間の移動の便宜が図られている。

2005 年 2 月竣工の CJ-International House は、外国人留学生 230 人、外国人研究者 63 人が入居できる宿舎であるが、各居室は必要なスペースを確保し、備品類も整えられている。House 内にはスポーツ・ジムもあり、各種の運動機器が設置されている。



〈キャンパス内の地下街〉

⑥ U21 (Universitas 21) について

U21 は 1997 年に始まり、現在の会員校は 12 カ国の 20 大学である。高麗大学校は 2004 年 12 月に会員となり、韓国で唯一の会員校である。他の会員校は、アジアではシンガポール国立大学、香港大学、復旦大学、北京大学、上海交通大学、英国のバーミンガム大学、エディンバラ大学、グラスゴー大学、ノッティンガム大学、米国のヴァージニア大学、カナダのブリティッシュ・コロンビア大学、マギル大学、オーストラリアのメルボルン大学、ニュー・サウス・ウェールズ大学、クイーンズランド大学、ニュージーランドのオークランド大学、アイルランドのユニヴァーシティ・カレッジ・ダブリン、スウェーデンのルンド大学、メキシコのモンテレー工科大学である。日本には会員校はない。

U21 は、それぞれの国の教育システムを維持し、それぞれの長所を生かしながら、教育プログラムを交換することによって独自のプログラムを設け、種々の交流・取組を推進している。U21 の本部はイギリスにある。U21 のもとには、オンライン・システムを管理する U21Global と、品質を管理する U21Pedagogica という 2 つの機関がある。U21Global の本部はシンガポールにあり、U21Pedagogica の本部は米国にある。高麗大学校としては、U21 は、ヨーロッパ型というよりも、アメリカ型のシステムであると考えている。

U21 には、運営管理のための AGM (Annual General Meeting)、総長理事会、国際交流担当マネージャー会議、専門分野別の会議（例えば、医学会議）など、種々の会議がある。

U21 の運営経費については、会員校が年会費を支払うこと以外に、U21Global の株式を会員校が購入するシステムをとっている。

毎夏、サマー・プログラムを行う。これは、会員校が互いにそれぞれのプログラムを持ち寄って実施する 2 週間の交流プログラムである。教員 1 人につき学生 5 人が各校から参加する。2005 年はスウェーデンで、2006 年は香港で行った。2007 年にはヴァージニア大学で行う予定であり、「グローバル・リーダー」というテーマのもとで種々の授業・講義の準備がなされている。



(4) まとめ

高麗大学校は私立大学であり、日本の国立大学と単純に比較することができない面もあるが、韓国を代表する大学校の一つとして、日本の国立大学の今後に示唆するところも多い。今回の調査・視察にもとづいて、以下では、高麗大学校に顕著に見られ、日本の国立大学でも検討すべきであると思われる点をまとめる。

① 大学院の国際化について

高麗大学校の大学院正規学生である外国人留学生は約 200 人である。国際化をさらに推進するために、講義全体の 25%は英語等の外国語で行い、大学院の成績評価では相対評価を用い、大学院入試でも高麗大学校出身者の入学者割合を制限して留学生にも機会を与え、優れた教員の確保に取り組んでいる。また、理・工系留学生の 100%、人文系留学生の 75%に奨学金を与えており、さらに大学院留学生のための寮・宿舎を建設する計画があり、施設の改善にも取り組んでいる。他方、2007 年から新たに大学院生の海外派遣にも着手する計画もある。

高麗大学校の国際化の取り組みのなかには、日本の国立大学で推進している事項もあるが、日本の国立大学で今後取り組むべきであると考えられる事項もある。とりわけ、大学院の成績評価で相対評価を行い、A の割合に制限を設けている点は、大学院教育の国際的な通用性・信頼性の観点からして日本の国立大学でも検討すべき事項である。また、奨学金や宿舎に関しても積極的に取り組んでいる点は（特に宿舎に関しては、すでに 2005 年 2 月竣工の CJ・International House という最新の優れた施設があるが、さらに大学院留学生向けの宿舎を建設しようとしている）、留学生に対する経済面・厚生福利面での支援が大学院教育の国際化を推進するうえで重要であることを改めて認識せしめるものであり、日本の国立大学でもその充実を図る必要がある。

② 授業料（登録料）と大学院生に対する経済的支援について

高麗大学校の財務面について聞くことはできなかったが、上の（3）①に記したように、授業料は学部によって異なり（文系、理系、工系、医系の順で高くなる）、また学部よりも大学院の授業料が高い。日本の国立大学よりは高いが、総じて日本の私立大学と比べると低めであり、とりわけ、医学部においてそれが顕著である。大学院生に対しては、授業料を賄うだけの経済的支援を行うことに熱意をもって取り組んでいる。特に、韓国においても理工系離れが現れつつある状況で、理工系の学生に対して経済的支援を行っている。今回の調査では、経済的支援を行うための方法・リソースに関して十分に明らかでない面があり、また日本の国立大学で直ちに実施しうるとは思われない面もあるが（他方で、授業料免除制度の有無について聞くことはできなかった）、高麗大学校の熱心な取組は、日本の国立大学においても大学院学生の経済的支援を充実させることが国際性の観点からも重要であることを再認識させるものであり、日本の国立大学でも種々の形で工夫・取組を行う必要がある。

③ 建物・施設について

高麗大学校の建物・施設は高い水準にあり、企業の援助がそれに少なからず与って

いる。日本の国立大学は施設整備費が厳しい状況にあるが、高等教育の重要性や国際性推進の観点からして、施設整備費を充実する努力を行うだけでなく、寄付に関する税制面の整備や社会的通念の改善を含めて、企業・卒業生などの寄付にもとづく施設充実策一般を検討し、社会に訴えていく必要もあると思われる。

④ U21 について

高麗大学校は韓国唯一の U21 会員校であり、他方、日本には会員校がないため、U21 について質問を行い、上の（３）⑥に記した説明がなされたが、時間的な制約もあり、U21 について必ずしも十分に聞くことはできなかった。国立大学の国際化の観点からして、今後さらに U21 の組織・運営・活動等について調査を行う必要があると考えられる。

3 ソウル大学校【国立】

(1) 日 時 2007年2月13日(火) 15:00～17:30

(2) 対応者 李 総長 外6名

(3) 概 要

① 大学校の概要について

学部数	研究科数	教職員数	学部生数	大学院生数	留学生数(内数)
16	10	5,900	21,000	11,000	1,300

過去において、ソウル大学校の大学院に入学する学生はそのほとんどがソウル大学校の学部を卒業した者であった。しかしながら、近年、他大学の学生や海外からの留学生の入学が増加し、さらに地域近郊入学制度により基礎学力の低い学生が入学するケースも増え始めた。学生の層が広がる中で、それぞれの学生が充実した大学院生活を送り学生全体の質の向上を図るためには、どのような教育や支援が必要なのか。ソウル大学校ではこのような課題を抱えつつ、様々な取り組みを実践している。以下、事前にソウル大学校側へ提出した質問書に対する回答に基づき、具体的な取り組みや興味深い点等を纏める。

② 9月入学(大学院)について

ソウル大学校の大学院では、通常の3月入学に加えて、2001年より9月入学制度を実施している。

2000年代に入り韓国からアメリカ等9月入学制度を実施する諸外国の大学へと留学する学生が増加したことに起因し、これらの学生が帰国後3月まで待機することなく速やかに大学院へと入学する制度の必要性が高まり、制度開始へと至った。この制度は海外からの留学生にとっても入学しやすいと考えられる。

現在、9月入学制度で入学する学生は全体の20%となっている。

③ 学習支援基盤について

1) Center for Teaching and Learning (教授学習開発センター)

ソウル大学校の代表的な学習支援システムのひとつに教授学習開発センターが挙げられる。このセンターの前身はIMC (Instructional Media Center、教育媒体製作所) と呼ばれる教授を支援する機関として設立され、講義用機材の管理や教材作成業務の補助等を請け負っていたが、1999年、学生に対する支援も行う機関として再構築され、教授学習開発センターと改称された。

現在、このセンターにおいて実施されている学生向けプログラムとしては、学部学生を対象とした、レポート作文の個別指導、大学院学生を対象とした論文執筆のためのレポート作成指導や自らの研究に関する学術発表を目指したプレゼンテーション指導が実施されている。さらに興味深いプログラムとして、研究室において教官や他の学生と協力して研究を進めることが必要とされる大学院生に対しては、円滑な人間関係を構築するためのトレーニングも実施されている。

教授学習開発センターにおける学生支援向けプログラムへの参加方法は、学生が自分自身の必要性に合わせて選択して応募する形式を取っており、それぞれの学生に見合った適切な学習支援が実現できるものと期待される。

また、教授学習開発センターでは、助教授やアシスタントを対象とした講義室や研究室での円滑な人間関係形成のためのトレーニングや、研究室における危機管理講習も実施している。このような教授する側として必要不可欠な能力や知識に関するプログラムについては、参加が義務付けられている。

2) GSI (Graduate Student Instructor) 奨学金

さらに、ソウル大学校では新たな学習支援の試みとして、2年前より GSI 奨学金制度を設けた。この奨学金制度は助手を対象としたものであり、週に 10 時間、教授のアシストをすることを条件として給付される。

教授のアシストに値する活動として挙げられるのが、基礎学力が不足している学生を対象としたチュータリング制度での指導である。このチュータリング制度は、大学全体としてではなく、各学部、学科及び専攻において開設され、希望する学生が参加できるシステムであり、修士課程の学生で研究を進めるために必要な基礎概念についての理解が不十分な者や入学以前の教育環境が不十分であった場合の多い地域近郊選抜制度での入学生が多く利用している。GSI 奨学金制度は、これらのチュータリング制度の運営を円滑にする意味でも有効な学習支援策のひとつとして注目される。

3) 留学生学習支援

また、ソウル大学校では留学生に対する学習支援制度の整備も進めている。

留学生の生活面における支援制度として採用されているのがセグメントバリと呼ばれるシステムであり、外国語の堪能な学生ボランティアにより学内生活から一般的な社会生活に至るまで手助けを受けることができる。

さらに、経済的な支援制度として、留学生を対象とした奨学金制度を設けており、現在、大学院に在籍する約 580 人の留学生のうち 4 分の 1 程度に当たる 162 人が給付を受けている。ソウル大学校としては、登録料を免除するという形の奨学金制度をとっているが、その他にも韓国政府や外部団体からの奨学金も受けることができる。

生活面と経済面の両側からのサポートにより、増えつつある留学生にとっても学びやすい環境となっている。

④ 留学生向け大学院生宿舎について

留学生専用の大学院生宿舎は、既婚の留学生にのみ準備されている。広さは約 17 平方メートル程度で、夫婦と子どもが 1 人の場合は部屋が 2 つ付いている寄宿舍、子どもが 2 人で性別が違う場合は部屋が 3 つ付いている寄宿舍を与えられる。

独身者の場合は、韓国の学生たちと同じ寮を使用することになっており、部屋のタイプは、1 人部屋、2 人部屋及び 6 人部屋がある。1 人部屋の管理費は一ヶ月で 9 万円程度となっている。

(4) まとめ

ソウル大学校の CTL（教授学習開発センター）は、同センター発行誌名「教えと学び」に表れているように、教授＝学習を一体としてとらえ、教える側の支援と学ぶ側の支援を統括しているため、両者からもたらされる多様・多元的な情報を有効活用しながら双方向的な教授学習支援を可能としている。これは、日本の FD（ファカルティ・デベロップメント）のあり方をデザインするうえで示唆に富むシステムといえよう。また、ワークショップやプログラムも、個のレベルから集団（グループ）のレベルまであり、学習者のニーズに応じたものとなっている。

大学生・大学院生の国語力の低下が問題となっている日本において、韓国の CTL のカリキュラムとその成果を検証し、各大学の実情に応じた日本版 CTL を構想してみる価値は十分にあるといえよう。



〈本部管理棟〉



第 2 部 資料編

1. 大学院教育に関する国際化活動

- ・ 目的
世界水準の大学院育成を通して大学の研究力を増進すると同時に学問後続世帯の育成のため
- ・ 施行
第1次；7ヵ年計画で1999年9月開始
第2次；2006年から
- ・ 関連
日本；21世紀COE
中国；211工程
- ・ 事業単数；33（全国2位）
人文社会（5）、科学基礎（5）、科学応用及び融合（8）専門サービス（1）、
核心分野（14）・・・国家政策領域
- ・ 事業団規模（1次年度）；208億ウォン（全国4位）
国費（161億ウォン）、自治体対応資金（3.6億ウォン）、産業界対応資金（32億ウォン）、
学校対応資金（10億ウォン）
- ・ 参加人力
教授；420名
参加大学院生；1,593名
- ・ ドイツフラウンホーファー IFAM 研究所
ドイツの代表的な機械部品及び材料分野専門研究所
 - ・ 協力の主な内容
IFM 研究所保有技術の国内産業界への移転
ブレメン大学と学術交流協定締結
産業界人力の技術伝授のための教育
2006年5月 PNU-IFAM 国際共同研究所 開所
- ・ ドイツフラウンホーファー IGB 研究所
界面及び生物工学研究園
 - ・ 協力の主な内容
2006年5月 PNU-IGB 国際共同研究所 開所
2006年10月 共同国際シンポジウム開催
- ・ 機関；夏季休み中6週間短期集中課程
- ・ 内容；英語教授－学習による英語教授

- ・講義等；OSU から PNU へ教授 4 名派遣
- ・構成；専門 4 科目*先履修 1 科目
- ・特典；課程履修者は PNU ほか OSU 大学院入学し大学院の単位として認められる。

- ・米国フロリダ大学
本校工科大学と大学院の間の協定
- ・米国マイアミ大学（推進中）
本校学部及び大学院の間の協定

2. BT 分野拠点キャンパスの構築

1. 釜山大学校 統合の特性
2. キャンパス別 特化計画
3. 構造改革
4. 特性化/競争力強化 財源確保

キャンパス別統合

- ・密陽キャンパス；ナノ/バイオ特化
- ・梁山キャンパス；医生命科学特化
- ・釜山キャンパス；総合研究中心

・ナノ科学技術大学

- 釜山大学校 最優秀 研究集団のナノ科学技術学部（教授 1 人当たり論文 7、8 編）
- ・3 学部、120 名入学定員の少数精鋭 英才教育
- ・注文形 人力需給製 注文形 教育実施

・類似学部の統廃合

- ・行政組織の統合
- ・教授の再配置
- ・職員の再配置

・政府の支援の極大化

・発展基金の拡充

・自体の収益のシステム構築

釜山；ヒョウオン文化会館 など

梁山；シルバー山学団地

密陽；ナノ/バイオ特化団地

ソウル大学校 卒業許可

I 正規 卒業 許可

1. 志願資格

- ・ 修士課程の志願者の中で学士の資格のある者
- ・ 博士課程の志願者の中で修士の資格のある者
- ・ 修士/博士の総合課程を1年以上勉強した者は SNU 博士課程に申し込むことができる。

2. 志願期間

	志願期間	学期の開始
春学期	10 月	3 月
秋学期	5 月	9 月

3. 許可定員

(2007年アカデミの許可学生数)

	修士	博士
春学期	2,368	657
秋学期	884	319
合計	3,252	976

4. 提出資料

- ・ 提出様式
- ・ 卒業、卒業予定の成績証明書
- ・ 英語試験 成績表
- ・ 大学、学部が要求する関連資料 (ex, 研究計画書、個人陳述、etc,)

5. 志願手続き

- ・ 志願は公表した志願手続きと志願システムの提供施設様式に従う (ex, オンライン様式) そして、志願結果も知らせる。
- ・ 選抜課程は関連学部と大学側の基準に従う。

・ 志願手順

申し込みの提出	オンライン志願；ウェヴページに志願
↓	↓
補助資料提出	大学と学部へ
↓	↓
大学と学部の試験（インタビュー、筆記試験）	大学と学部で
↓	↓
結果発表	ウェヴページ

6. 志願基準

- ・ 筆記試験 研究分野に関する目的と知識を試験
- ・ 面接 研究領域においての内容と動機を教授と面接
- ・ 包括的資料のレビュー 大学での研究成果に関するレビュー 及び研究計画、個人陳述、勧告など
- ・ 英語試験成績 格大学と学部が要している申請に適するある程度の英語試験成績 (ex,英語と文学 TOFLE CBT243 以上)

7. 志願手続き（人類大学）

- ・ 格大学と学部は格自の選抜基準を使う、大学と学部によっては複数の段階の許可手順を適用する。
- ・ 人類学での許可手順の例

<基準>

	総合点数	筆記試験	面接	書類審査	第2外国語
1次選抜	200	—	120	80	(100)
2次選抜	400	200	120	80	

<選抜手順>

1次選抜	面接と書類審査だけで選抜、学部は次のように区別、選抜する<条件付合格> <2次選抜候補者><不合格者>条件付合格者は第2外国語試験の結果により合格が決まる。
2次選抜	2次選抜応募者の中で学部は追加で筆記試験成を考えて許可を決める、選抜された学生は第2外国語試験に合格しなければならない。

Ⅱ 国際卒業許可

1. 申請資格

- ・ 親と本人が外国国籍者、または韓国以外の国で全教育課程を受けた者
- ・ 学士の学位を持つ修士課程志願者
- ・ 修士の学位を持つ博士課程志願者

2. 申し込み期限

	申し込み期限	学期の開始
春学期	9 月	3 月
秋学期	4 月	9 月

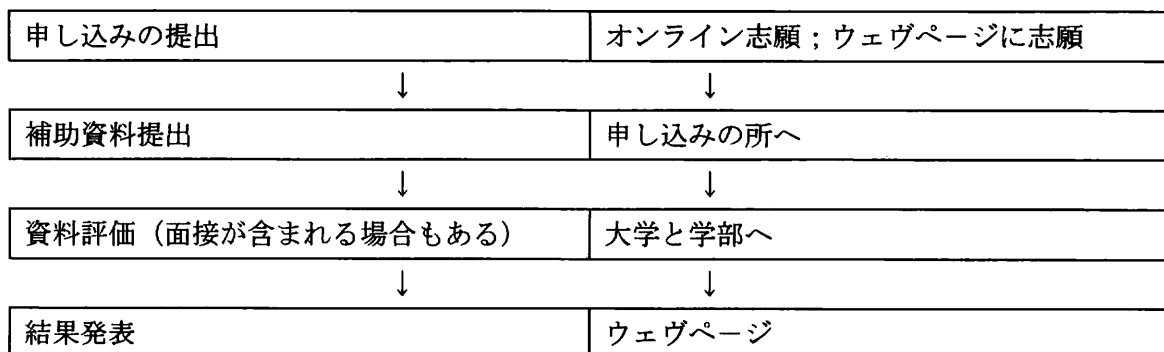
3. 申し込み様式

- ・ 申し込み様式書
- ・ 研究計画書と個人陳述
- ・ 卒業したコースでの成績証明書
- ・ 学士または修士の学位証明書
- ・ 志願者のパスポートの写し
- ・ 英語試験での成績認定書、英語圏での住民はこの条件は免除される。
- ・ その他の条件；言語上達証明書（韓国語試験、TOFEL,TEPS,HSK,JLPT,DELF,ZD など）研究の賞、証明書、ほかの試験記録（GRE,GMAT,など）

4. 申し込み手続き

- ・ 志願は公表した志願手続きと志願システムの提供施設様式に従う（ex,オンライン様式）そして、志願結果も知らせる。
- ・ 選抜課程は関連学部と大学側の基準に従う。

・ 志願手順



5. 許可基準

- ・ 許可は志願者の学業成績と個人の学業成就度のような可能性により決まる。
- ・ 許可委員会は学生の過去の成績（GPA のような）と研究計画、個人陳述、推薦書などと、ほかの成就記録、特性の記録などを参考にする。
- ・ 志願者の申請は全般的な学業水準の文脈と学業成果の質、設立に伴う特性などをみる。
- ・ 最後に志願者は学業の目標と研究計画の適切性が評価される。

6. SNU 国際許可の観点

- ・ SNU は多様な経歴の背後を持つ学生を歓迎する、国際的な学生は習い場の雰囲気になんな観点を提供する、大学側は多くの供給原を持って外国の学生と教員を支援する。
- ・ SNU 許可所は次の年の国際的卒業志願のため ‘rolling application’ の紹介を奨励している、私たちはこの志願手続きとこの道に対するもっと多くの志願者の機会と便宜を提供したいと願う。

7. 国際所からの援助

- ・許可の結果は許可国に許可所から公表する、合格者には合格証明書を発給している
- ・国際所では合格者に対して、ビザ業務、宿泊施設、奨学金の支給に関する業務を支援している。

8. 奨学金

- ・入学後国際学生は多くの奨学金の利用が可能である、これは SNU 奨学所と個人後援奨学金を含む。
- ・韓国政府は韓国で勉強している外国人に色んな奨学金を提供している、興味のある学生は格国の在韓国大使館に問い合わせることができる。
- ・卒業生の一部の人たちはサムソングlobal奨学財団の EECE(電気工学とコンピュータ)へ志願できる資格が与えられる。
- ・また、学生は属している学部の教授の教えるのを手伝うこと (TA) や研究を手伝うこと (RA) を通して奨学金を提供してもらう機会ももつ。

統計値 (1) ; 正規卒業許可データ

学 年 度	春				秋				学年度合計			
	修士		博士		修士		博士		修士		博士	
	応募者	合格者	応募者	合格者	応募者	合格者	応募者	合格者	応募者	合格者	応募者	合格者
2005	5,370	2,790	1,296	834	2,340	981	631	355	7,710	3,771	1,927	1,189
2006	5,889	2,488	1,276	659	1,815	874	513	305	7,704	3,362	1,789	964
2007	4,306	2,364	1,168	652	—	—	—	—	—	—	—	—

統計値 (2) ; 国際卒業データ

学 年 度	春				秋				学年度合計			
	修士		博士		修士		博士		修士		博士	
	応募者	合格者	応募者	合格者	応募者	合格者	応募者	合格者	応募者	合格者	応募者	合格者
2005	203	87	67	50	255	131	83	56	458	218	150	106
2006	199	100	77	46	317	150	100	53	516	250	177	99
2007	281	141	79	42	—	—	—	—	—	—	—	—

統計値 (3) ; 日本学生許可データ

学年度

課程	学期	学部	志願者	合格者
修士	春	韓国歴史	2	2
		政治科学	1	0
		国際関係	3	2
		人類学	2	2
		美術	1	0
		GSIS 国際貿易	1	1
		GSIS 韓国研究	2	2
		小計	12	9
	秋	韓国語と文化	1	1
		国際関係	1	0
		企業経営	2	1
		韓国語教育	1	0
		小計	5	2
	合計		17	11
博士	春	韓国語と文学	1	1
		言語学	1	1
		関連学 ; 神経科学専門	1	1
		地球と環境科学	1	1
		物理教育 (スポーツ科学専門)	1	1
		韓国語教育	2	1
		衣類と繊維	1	1
		小計	8	7
	秋	エステティックス	1	0
		韓国語教育	2	0
		小計	3	0
	合計		11	7

* 2006 学年度

課程	学期	学部	志願者	合格者
修士	春	言語学	1	1
		韓国歴史	1	1
		考古学と芸術歴史	1	0
		国際関係	2	1
		社会学	1	1
		人類学	1	1
		心理学	1	0
		地理学	1	1
		企業経営	1	1
		農業経済と農業発展	1	1
		東洋画	1	1
		GSIS 韓国研究	1	1
		小計	13	10
	秋	言語学	1	1
		韓国歴史	1	0
		考古学と美術歴史	1	1
		政治科学	1	1
		心理科学	1	0
		教育	2	1
		物理教育（スポーツ科学）	1	1
		GSIS 国際商業	1	1
		GSIS 国際協力	1	1
		GSIS 韓国研究	2	1
		小計	12	8
	合計		25	18
博士	春	韓国語と文学	1	1
		美術	1	0
		法学	1	1
		小計	3	2
	秋	韓国歴史	1	1
		関係研究	1	1
		小計	2	2
	合計		5	4

* 2007 学年度

課程	学期	学部	志願者	合格者
修士	春	韓国語と文学	1	1
		言語学	1	1
		社会福祉	1	1
		韓国語教育	3	1
		GSIS 韓国研究	2	1
		小計	8	5
博士	春	韓国語教育	2	2

各大学の正規卒業基準①

大学(院)	区別		選考 総点	英語	専門筆 答審査	面 接・ 口述審査	書類審査	第 2 外国 語（科落 適応）	実技審査 （作品評 価）
人文大学	1 次選抜		200	－	－	120	80	(100)	－
	2 次選抜		400	－	200	120	80		
社会科学 大学	修 士	経済学部	200	－	100	100	参考資料	－	－
		その他募集単位		－	－	100	100	(100)	－
	博士		200	－	－	100	100	(100)	－
自然科学大学			200	－	－	100	100	－	－
看護大学	修士		150	50	－	50	50	－	－
	博士		200	50	－	100	50	－	－
経営大学	修 士	1 段階選考	200	－	－	－	200	－	－
		2 段階選考	200	－	－	80	120	－	－
	博士		200	－	－	80	120	－	－
工学大学	修 士	電気・コンピュ ータ工学部・化 学生物工学部	200	－	50	50	100	－	－
		その他募集単位		－	－	100	100	－	－
	博士		200	－	－	100	100	－	－
農業生命科学大学			200	－	－	100	100	－	－

各大学の正規卒業基準②

大学(院)	区別		選考 総点	英語	専門筆 答考査	面 接・ 口述考査	書類審査	第 2 外国 語（科落 適応）	実技考査 （作品評 価）
美術大学	修 士	西洋画科・美術理 論専門	200	—	—	150	50	(100)	参考資料
		その他募集単位		—	50	50	参考資料		100
		博士		200	—	70	60		70
	法科大学	修 士	1 次選抜	200	—	—	60	140	(100)
2 次選抜			200	—	200	—	—		
博士		400	—	200	100	100			
師範大学	Ⅰ		200	—	—	100	100	—	芸術界の 場合面接 に反映
	Ⅱ		200	—	100	100	—	(100)	
	Ⅲ	1 次選抜	200	—	—	100	100	(100)	—
		2 次選抜	200	—	100	100	—		
	Ⅳ	1 次選抜	100	—	—	—	100	(100)	—
		2 次選抜	100	—	75	25	—		
	Ⅴ		100	—	75	25	—	—	—
	生活科学 大学	Ⅰ		200	—	100	60	40	—
Ⅱ		200	—	—	140	60	—	—	
獣医大学			200	—	200	—	参考資料	—	—
薬学大学			200	—	—	160	40	—	—
音楽大学	修士		200	—	—	—	参考資料	(100)	200
	博士		200	—	—	—	参考資料		200

各大学の正規卒業基準③

大学(院)	区別			選考 総点	英語	専門筆答 考查	面接・ 口述考查	書類審査	第2外国 語(科落 適応)	実技考查 (作品評 価)	
医科大学	Ⅰ			250	50	—	—	200	—	—	
	Ⅱ			250	50	200	—	参考資料			
歯科大学				200	—	—	150	50	—	—	
保健大学 院	Ⅰ			400	—	—	200	200	—	—	
	Ⅱ			400	120	200	40	40			
	Ⅲ			400	80	—	40	280			
行政大学 院	修 士	1次	1段階	200	100	—	—	100	—	—	
		選抜	2段階	300	100	—	100	100			
	2次選抜			300	100	200	—	参考資料			
	博 士	1次選抜			200	—	—	80			120
		2次選抜			200	—	140	40			20
環境大学 院	修 士	環境計画学科		500	100	—	250	150	—	—	
		環境造景学科			100	—	250	80			
	博 士	環境計画学科		400	—	—	250	150			
		(協)造景学専門			—	—	300	100			
国際大学 院	修 士	1段階選考		200	100	—	—	100	(100)		
		2段階選考		200	—	—	200	—			
	博 士	1段階選考		100	—	—	—	100	—		
		2段階選考		200	—	—	200	—	—		

* 募集単位区別

大学（院）	区別	募集単位
師範大学	I	教育学科（博士）、社会教育科（地理専門）、数学教育科（博士）、科学教育科（化学、生物、地球科学専門）、共同課程（美術、家庭、特殊＜博士＞、環境教育専門）
	II	教育学科（修士）、国語教育科、外国語教育科（英語＜修士＞、仏語、ドイツ語専門）、社会教育科（一般社会、歴史専門）、数学教育科、（修士）、科学教育科（物理専門）、体育教育科、共同課程（音楽、特殊＜修士＞、幼児教育専門）
	III	外国語教育科 英語専門（博士）
	IV	国民論理教育科（修士）
	V	国民論理教育科（博士）
生活科学 大学	I	修士（児童家族学科、食品栄養学科、衣類学科）
	II	修士（消費者学科）、博士（消費者学科、児童家族学科、食品栄養学科、衣類学科）
医科大学	I	解剖学、生理学、病理学、薬理学、微生物学、予防医学、寄生虫学、医者学、法医学、医療管理学、医工学、整形外科、神経外科学、非尿器科学、耳鼻咽喉科学、眼科学、放射線科学、放射線腫瘍学、検査医学、再活医学、核医学、家庭医学、脳神経科学、免疫学、分子・遺伝体医学、分子腫瘍医学、（協）腫瘍生物学専門、（協）臨床薬理学専門、（協）放射線応用生命科学専門
	II	内科学、外科学、産婦人科学、小児科学、胸部外科学、精神科学、麻酔科学、整形外科、応急医学
保健大学 院	I	修士1部、2部（保健学専門、環境保健学科）、及び博士
	II	修士1部（保健政策管理学専門）
	III	修士2部（保健政策管理学専門）

各大学の正規卒業許可選択過程

大学（院）	区別		選抜方法
人文大学	1 次選抜		面接及び口述考査、書類審査成績を合算その総点順に＜条件付合格予定者＞、＜2 次選抜対象者＞、＜不合格者＞で区別決定 ＜条件付合格予定者＞の中第 2 外国語試験で科落基準未該当者を合格者と選抜する。
	2 次選抜		＜2 次選抜対象者＞を対象に専門筆記考査、1 次選抜成績を合算し、総点順に追加で合格者を選抜、第 2 外国語の試験成績は科落基準として適用する。
社会科学 大学	修 士	経済学部	専門筆答考査、面接及び口述考査を合算し総点順に合格者を選抜、提出書類は面接及び口述考査し参考資料とする。
		その他募集単位	面接及び口述考査、書類審査成績を合算し総点順に合格者を選抜、第 2 外国語試験学部募集単位は第 2 外国語試験成績を科落基準とする。
	博士		面接及び口述考査、書類審査成績を合算し総点順に合格者を選抜、第 2 外国語試験学部募集単位は第 2 外国語試験成績を科落基準とする。
自然科学大学			面接及び口述考査、書類審査成績を合算し総点順に合格者を選抜する。
看護大学	修士		面接及び口述考査、書類審査、英語成績を合算し総点順に合格者を選抜する。
	博士		面接及び口述考査、書類審査、英語成績を合算し総点順に合格者を選抜する。
経営大学	修 士	1 段階選考	書類審査成績で選抜予定人員の 2 倍範囲内の人員を＜1 段階合格者＞に選抜
		2 段階選考	＜1 段階合格者＞を対象に面接及び口述考査成績と 1 段階選考成績を反映して総点順に合格者を選抜する。
	博士		面接及び口述考査、書類審査の成績を合算し総点順に合格者を選抜する。
工学大学	修 士	電気コンピュータ工学部、科学生物工学部	専門筆答考査、面接及び口述考査、書類審査の成績を合算し総点順に合格者を選抜する。
		その他募集単位	面接及び口述考査、書類審査の成績を合算し総点順に合格者を選抜する。
	博士		面接及び口述考査、書類審査の成績を合算し総点順に合格者

			を選抜する。
農業生命科学大学			面接及び口述考查、書類審査の成績を合算し総点順に合格者を選抜する。
美術大学	修士	西洋画科 美術理論 専門	面接及び口述考查、書類審査（自己紹介書及び数学計画書）の成績を合算し総点順に合格者を選抜する、第2外国語試験応募者は第2外国語成績を科落基準として適用する、提出した研究作品は面接及び口述考查時参考資料とする。
		その他募集単位	専門筆答考查、研究作品評価、面接及び口述考查の成績を合算し総点順に合格者を選抜する、第2外国語試験応募者は第2外国語成績を科落基準として適用する、提出した研究作品は面接及び口述考查時参考資料とする。
	博士		専門筆答考查、書類審査（研究実績評価を含む）、面接及び口述考查の成績を合算し総点順に合格者を選抜する、第2外国語試験応募者は第2外国語成績を科落基準として適用する。
法科大学	修士	1次選抜	面接及び口述考查、書類審査の成績を合算し総点順に＜条件付合格者＞、＜2次選抜対象者＞を選抜する、ただし＜条件付合格者＞は選抜合格選抜予定人員の30%にし、第2外国語試験科落基準未該当者を合格者と選抜する。
		2次選抜	＜2次選抜対象者＞を対象に専門筆答考查の成績順に追加選抜合格者を選抜、第2外国語試験成績は科落基準とする。
	博士		専門筆答考查、面接及び口述考查、書類審査の成績を合算し総点順に合格者を選抜する、第2外国語試験成績は科落基準とする。
師範大学	I		書類審査、面接及び口述考查（ただし、共同課程美術教育専門の修士課程は作品評価を含む、博士課程は作品評価か、修士学位論文を含む）の成績を合算し総点順に合格者を選抜する。
	II		専門筆答考查、面接及び口述考查（共同課程音楽教育専門の専門実技を含む）の成績を合算し総点順に合格者を選抜する、第2外国語試験学部募集単位は第2外国語試験成績を科落基準とする。
		1次選抜	面接及び口述考查、書類審査の成績を合算し総点順に＜条件付合格者＞、＜2次選抜対象者＞、＜不合格者＞と区別選抜する ＜条件付合格予定者＞の中第2外国後試験で科落基準未該当者を合格者と選抜する。

	2 次選抜	＜2 次選抜対象者＞を対象に専門筆答考査、面接及び口述考査の成績を合算し、総点順に追加選抜合格者を選抜、第 2 外国語試験成績は科落基準とする。	
	IV	1 次選抜	書類審査の成績で＜条件付合格者＞、＜2 次選抜対象者＞、＜不合格者＞と区別選抜する。
		2 次選抜	＜2 次選抜対象者＞を対象に専門筆答考査、面接及び口述考査の成績を合算し、総点順に追加選抜合格者を選抜する。
	V	専門筆答考査、面接及び口述考査の成績を合算し、総点順に合格者を選抜する。	
生活科学 大学	I	専門筆答考査、面接及び口述考査、書類審査の成績を合算し、総点順に合格者を選抜する。	
	II	面接及び口述考査、書類審査の成績を合算し、総点順に合格者を選抜する。	
獣医科大学		専門筆答考査成績順に合格者を選抜する、時面接及び口述考査は等級化反映する、提出書類は面接及び口述考査参考資料とする。	
薬学大学		面接及び口述考査、書類審査の成績を合算し、総点順に合格者を選抜する。	
音楽大学		実技考査成績順に合格者を選抜する、第 2 外国語試験成績は科落基準とする、面接及び口述考査は等級化反映し、提出書類は面接及び口述考査参考資料とする。	
医学大学	I	書類審査、英語成績を合算し、総点順に追加選抜合格者を選抜する、面接及び口述考査は等級化反映する。	
	II	専門筆答考査、英語成績を合算し、総点順に追加選抜合格者を選抜する、出書類は面接及び口述考査参考資料とする。	
歯科大学		面接及び口述考査、書類審査の成績を合算し、総点順に合格者を選抜する。	
保健大学	I	面接及び口述考査、書類審査の成績を合算し、総点順に合格者を選抜する。	
	II	専門筆答考査、面接及び口述考査、書類審査、英語成績を合算し、総点順に合格者を選抜する。	
	III	面接及び口述考査、書類審査、英語成績を合算し、総点順に合格者を選抜する。	

行政大学 院	修 士	1 次 選 抜	1 段 階	書類審査、英語成績を合算し、総点順に選抜予定人員 2 倍の範囲内の人員を<1 段階合格者>と選抜する。
			2 段 階	<1 段階合格者>を対象に面接及び口述考査、書類審査、英語成績を合算し、総点順に追加選抜<合格者>を選抜する。
		2 次選抜		<2 次選抜対象者>を対象に専門筆答考査英語成績を合算し追加で選抜する、面接及び口述考査は等級化して選抜する。
	博 士	1 次選抜		面接及び口述考査、書類審査成績を合算し、総点順に<合格者>を選抜する。
		2 次選抜		<2 次選抜対象者>を対象に専門筆答考査を実施し、専門筆答考査成績と 1 次選抜成績を反映し、総点順に追加選抜合格者を選抜する。
環境大学 院	修士			面接及び口述考査、書類審査、英語成績を合算し、総点順に合格者を選抜する。
	博士			面接及び口述考査、書類審査成績を合算し、総点順に合格者を選抜する。
国際大学 院	修 士	1 段階選考		書類審査、英語成績を合算し、総点順に選抜予定人員 2 倍の範囲内の人員を<1 段階合格者>と選抜する、第 2 外国語試験成績は科落基準とする。
		2 段階選考		<1 段階合格者>を対象に面接及び口述考査成績順に合格者を選抜する。
	博 士	1 段階選考		書類審査成績順に選抜予定人員 2 倍の範囲内の人員を<1 段階合格者>と選抜する。
		1 段階選考		<1 段階合格者>を対象に面接及び口述考査成績順に合格者を選抜する。

○ 調査日程及び調査団名簿

1 調査日程

2007年2月12日 10時30分～12時30分 釜山大学校 【国立】

2月13日 10時～12時 高麗大学校 【私立】

2月13日 15時～17時30分 ソウル大学校 【国立】

2 訪問団名簿（8名）

名古屋大学総長 平野真一 国大協 教育・研究委員会委員長

岩手大学長 平山健一 国大協 教育小委員会委員長

岩手大学人文社会科学部助教授 後藤尚人 国大協 教育小委員会専門委員
〈釜山大学校 執筆〉

横浜国立大学教育人間科学部教授 矢内光一 〃
〈高麗大学校 執筆〉

奈良教育大学教育学部教授 松川利広 〃
〈ソウル大学校 執筆〉

宮崎大学理事・副学長 碓 哲雄 〃

国立大学協会事務局 山下洋一 企画部専門職員

〃 杉山 力 総務部主任

○ 教育・研究委員会及び教育小委員会委員名簿

【教育・研究委員会】

委員長	平 野 眞 一	名古屋大学長
副委員長	平 山 健 一	岩手大学長
副委員長	岩 崎 洋 一	筑波大学長
委 員	鈴 木 直 義	帯広畜産大学長
〃	三 浦 亮	秋田大学長
〃	益 田 隆 司	電気通信大学長
〃	吉 村 融	政策研究大学院大学長
〃	菊 池 龍三郎	茨城大学長
〃	飯 田 嘉 宏	横浜国立大学長
〃	寺 尾 俊 彦	浜松医科大学長
〃	成 瀬 龍 夫	滋賀大学長
〃	柳 澤 保 徳	奈良教育大学長
〃	一 井 眞比古	香川大学長
〃	下 村 輝 夫	九州工業大学長
〃	住 吉 昭 信	宮崎大学長

【教育小委員会】

委員長	平 山 健 一	岩手大学長
委 員	三 浦 亮	秋田大学長
〃	益 田 隆 司	電気通信大学長
〃	吉 村 融	政策研究大学院大学長
〃	成 瀬 龍 夫	滋賀大学長
〃	下 村 輝 夫	九州工業大学長
専門委員	石 橋 憲 一	帯広畜産大学理事・副学長
〃	後 藤 尚 人	岩手大学人文社会科学部助教授
〃	曾 我 日出夫	茨城大学教育学部教授
〃	吉 野 正 巳	東京大学学生部長
〃	矢 内 光 一	横浜国立大学教育人間科学部教授
〃	松 川 利 広	奈良教育大学教育学部教授
〃	加 野 芳 正	香川大学教育学部教授
〃	碓 哲 雄	宮崎大学理事・副学長

(順不同 平成 18 年 3 月 31 日現在)

平成１９年４月発行

大学院教育に関する海外調査報告書
—韓国（釜山大学校、高麗大学校、ソウル大学校）—

編 集 社団法人国立大学協会 教育・研究委員会
発 行 社団法人国立大学協会 事務局

©Copyright2006 JANU All Rights Reserved
(無断複写・転載を禁じます)



社団法人 国立大学協会
The Japan Association of National Universities